

注3

大学番号：013

[平成28年度設置]

計画の区分： 研究科の設置

注1

事前伺い

山形大学大学院 有機材料システム研究科

注2

【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人山形大学
平成30年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	企画部企画課
職名・氏名	フカチョウ 副課長・ サ タケ ヒロ アキ 佐竹 弘 顕
電話番号	023-628-4190
（夜間）	023-628-4190
F A X	023-628-4849
e-mail	kikadai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・ 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・ 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・ 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・ 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・ 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

有機材料システム研究科

<有機材料システム専攻（博士後期課程）>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	16
6. 留意事項等に対する履行状況等	25
7. その他全般的事項	26

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 山形大学

(2) 大学名

山形大学大学院

(3) 大学の位置

〒992-8510
山形県米沢市城南四丁目3番16号

(〒990-8560
山形県山形市小白川町一丁目4番12号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	※該当なし		
学長	(コヤマ キョヒト) 小山清人 (平成26年4月)		
研究科長	(イトウ ヒロシ) 伊藤浩志 (平成28年4月)		
専攻長	(カワグチ セイゴウ) 川口正剛 (平成28年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
有機材料システム研究科 有機材料システム専攻(博士後期課程) 博士(工学)	工学関係	3年	10人	30人	基礎となる学部等 工学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	10 (-) [-]		10 (-) [-]		10 (-) [-]		1.00 倍	入学者数には, 博士後期課程リーディングプログラム「フロンティア有機材料システムフレックス大学院」における博士後期課程への進学審査による進学(QE進学)者数を含む。 【平成28年度(春季入学)】 2人(うち留学生1人) 【平成29年度(春季入学)】 3人(うち留学生2人) 【平成30年度(春季入学)】 2人(うち留学生0人)
志願者数	9 (7) [-]	- (-) [-]	5 (5) [-]	3 (2) [-]	7 (4) [-]	- (-) [-]		
受験者数	9 (7) [-]	- (-) [-]	5 (5) [-]	3 (2) [-]	6 (4) [-]	- (-) [-]		
合格者数	9 (7) [-]	- (-) [-]	5 (5) [-]	3 (2) [-]	6 (4) [-]	- (-) [-]		
B 入学者数	11 (7) [1]	- (-) [-]	8 (5) [2]	3 (2) [-]	8 (4) [-]	- (-) [-]		
入学定員超過率 B/A	1.10		1.10		0.80			

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	11 [1] (-)	- [-] (-)	8 [2] (-)	3 [-] (-)	8 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次			11 [1] (-)	- [-] (-)	8 [2] (-)	3 [-] (-)	
3年次							
計	11 [1] (-)				22 [3] (-)		

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況について、内数で**記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成28年度	11人	0人	平成28年度	0人	0人	
平成29年度	22人	2人	平成28年度	2人	0人	社会人学生で業務多忙のため(2人)
			平成29年度	0人	0人	
平成30年度	28人	0人	平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
合計	61人	2人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{22} = \boxed{9.09} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{28} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<有機材料システム研究科 有機材料システム専攻（博士後期課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	有機機能材料化学特論B	1後	2			1						
	高分子設計学特論	1前	2			1						
	機能性高分子反応学特論	1後	2			1						
	機能材料化学特論	1前	2				1					
	エンジニアリングプラスチック開発特論	1前	2				1					
	高分子電子材料合成特論B	1後	2				1					
	有機材料構造化学特論B	1後	2								1	
	有機デバイス特論	1後	2			1						
	有機薄膜物性特論B	1前	2			1						
	材料システム学特論	1前	2			1						
	有機電子材料物性特論	1後	2				1					
	有機電子材料合成特論B	1後	2				1					
	有機光物理学特論	1後	2				1					
	有機太陽電池工学特論	1後	2								1	
	有機ナノ粒子材料工学	1前	2								1	
	高分子加工学特論	1後	2			1						
	高分子構造学特論B	1後	2			1						
	プラスチック製品設計工学特論	1後	2			1						
	レオロジー工学特論	1前	2			1						
	ソフト材料加工学特論	1後	2			1						
	ソフトマテリアル工学特論	1前	2				1					
	高分子応用レオロジー特論B	1前	2				1					
	有機材料物性物理学B	1前	2				1					
	ソフトマター科学	1前	2				1					
	機能材料表面物性特論	1前	2			1						
	ナノ半導体デバイス特論	1後	2								1	
	ソフト&ウエットマター工学特論	1後	2								1	
知覚情報システム概論	1後	2								1		
半導体プロセス工学特論	1後	2								1		
先端情報通信LSIシステム特論B	1後	2								1		
天然物複合材料特論	1後	2				1						
生体理工学特論	1前	2								1		
生物生産学特論	1前	2								1		
グローバル・実践科目	有機材料システム特別計画研究	1前	2			12	11		7		7	
	有機材料システム特別教育研修	1前・後	2			12	11		7		7	
	有機材料システム研究計画(プロポーザル)	2前	2			12	11		7		7	
	実践型PBL教育Ⅱ	1前		2							1	
	グローバルコミュニケーション演習Ⅱ	1前		2			1					
	国際共同研究(長期海外インターンシップ)	1前・後		2			1					
有機材料システム特別演習B	1-3通	2			12	11		7		7		
有機材料システム特別実験B	1-3通	4			12	11		7		7		

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	有機機能材料化学特論B	1後	2			1						
	高分子設計学特論	1前	2			1						
	機能性高分子反応学特論	1後	2			1						
	機能材料化学特論	1前	2				1					
	エンジニアリングプラスチック開発特論	1前	2				1					
	高分子電子材料合成特論B	1後	2				1					
	有機材料構造化学特論B	1後	2									1
	有機デバイス特論	1後	2			1						
	有機薄膜物性特論B	1前	2			1						
	材料システム学特論	1前	2			1						
	有機電子材料物性特論	1後	2				1					
	有機電子材料合成特論B	1後	2				1				1	
	有機光物理学特論	1後	2				1					
	有機太陽電池工学特論	1後	2									1
	有機ナノ粒子材料工学	1前	2									1
	高分子加工学特論	1後	2			1						
	高分子構造学特論B	1後	2			1						
	プラスチック製品設計工学特論	1後	2			1						
	レオロジー工学特論	1前	2			1						
	ソフト材料加工学特論	1後	2			1						
	ソフトマテリアル工学特論	1前	2				1					
	高分子応用レオロジー特論B	1前	2				1					
	有機材料物性物理学B	1前	2				1					
	ソフトマター科学	1前	2				1					
	機能材料表面物性特論	1前	2			1						
	ナノ半導体デバイス特論	1後	2									1
	ソフト&ウエットマター工学特論	1後	2									1
知覚情報システム概論	1後	2									1	
半導体プロセス工学特論	1後	2									1	
先端情報通信LSIシステム特論B	1後	2									1	
天然物複合材料特論	1後	2				1						
生体理工学特論	1前	2									1	
生物生産学特論	1前	2									1	
機能性高分子材料特論	1後	2								1		
バイオポリマー工学特論	1前	2								1		
有機エレクトロニクス材料化学特論	1前	2					1					
複合材料工学特論	1前	2								1		
高分子材料設計特論	1後	2								1		
高分子包膜システム工学特論	1後	2								1		
グローバル・実践科目	有機材料システム特別計画研究	1前	2			14	9		6		7	
	有機材料システム特別教育研修	1前・後	2			14	9		6		7	
	有機材料システム研究計画(プロポーザル)	2前	2			14	9		6		7	
	実践型PBL教育Ⅱ	1前		2							1	
	グローバルコミュニケーション演習Ⅱ	1前		2			1					
	国際共同研究(長期海外インターンシップ)	1前・後		2			1					
有機材料システム特別演習B	1-3通	2			14	9		6		7		
有機材料システム特別実験B	1-3通	4			14	9		6		7		

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	有機光機能材料化学特論B	1後	2			1						
	高分子設計学特論	1前	2			1						
	機能性高分子反応学特論	1後	2			1						
	機能材料化学特論	1前	2			1						
	エンジニアリングプラスチック開発特論	1前	2				1					
	高分子電子材料合成特論B	1後	2				1					
	有機材料構造化学特論B	1後	2								1	
	有機デバイス特論	1後	2			1						
	有機薄膜物性特論B	1前	2			1						
	材料システム学特論	1前	2			1						
	有機電子材料物性特論	1後	2								1	
	有機電子材料合成特論B	1後	2				1					
	有機光物理学特論	1後	2				1					
	有機太陽電池工学特論	1後	2								1	
	有機ナノ粒子材料工学	1前	2								1	
	高分子加工学特論	1後	2			1						
	高分子構造学特論B	1後	2			1						
	プラスチック製品設計工学特論	1後	2			1						
	レオロジー工学特論	1前	2			1						
	ソフト材料加工学特論	1後	2			1						
	ソフトマテリアル工学特論	1前	2				1					
	高分子応用レオロジー特論B	1前	2				1					
	有機材料物性物理学B	1前	2				1					
	ソフトマター科学	1前	2				1					
	機能材料表面物性特論	1前	2				1					
	ナノ半導体デバイス特論	1後	2								1	
	ソフト&ウエットマター工学特論	1後	2								1	
	知覚情報システム概論	1後	2								1	
半導体プロセス工学特論	1後	2								1		
先端情報通信LSIシステム特論B	1後	2								1		
天然物複合材料特論	1後	2				1						
生体生理工学特論	1前	2								1		
生物生産学特論	1前	2								1		
機能性高分子材料特論	1後	2									1	
バイオポリマー工学特論	1前	2									1	
有機エレクトロニクス材料化学特論	1前	2								1		
複合材料工学特論	1前	2									1	
高分子材料設計特論	1後	2									1	
高分子包膜システム工学特論	1後	2									1	
グローバル・実践科目	有機材料システム特別計画研究	1前	2			13	9		6		7	
	有機材料システム特別教育研修	1前・後	2			13	9		6		7	
	有機材料システム研究計画(グローバル)	2前	2			13	9		6		7	
	実践型PBL教育Ⅱ	1前	2								1	
	グローバルコミュニケーション演習Ⅱ	1前	2			1						
国際共同研究(長期海外インターンシップ)	1前・後	2			1							
有機材料システム特別演習B	1-3通	2			13	9		6		7		
有機材料システム特別実験B	1-3通	4			13	9		6		7		

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	有機光機能材料化学特論B	1後	2			1						
	高分子設計学特論	1前	2			1						
	機能性高分子反応学特論	1後	2			1						
	機能材料化学特論	1前	2			1						
	エンジニアリングプラスチック開発特論	1前	2				1					
	高分子電子材料合成特論B	1後	2				1					
	有機材料構造化学特論B	1後	2									1
	有機デバイス特論	1後	2			1						
	有機薄膜物性特論B	1前	2			1						
	材料システム学特論	1前	2			1						
	有機電子材料物性特論	1後	2								1	
	有機電子材料合成特論B	1後	2				1					
	有機光物理学特論	1後	2				1					
	有機太陽電池工学特論	1後	2								1	
	有機ナノ粒子材料工学	1前	2								1	
	高分子加工学特論	1後	2			1						
	高分子構造学特論B	1後	2			1						
	プラスチック製品設計工学特論	1後	2			1						
	レオロジー工学特論	1前	2			1						
	ソフト材料加工学特論	1後	2			1						
	ソフトマテリアル工学特論	1前	2				1					
	高分子応用レオロジー特論B	1前	2				1					
	有機材料物性物理学B	1前	2				1					
	ソフトマター科学	1前	2				1					
	機能材料表面物性特論	1前	2				1					
	ナノ半導体デバイス特論	1後	2									1
	ソフト&ウエットマター工学特論	1後	2									1
	知覚情報システム概論	1後	2									1
半導体プロセス工学特論	1後	2									1	
先端情報通信LSIシステム特論B	1後	2									1	
天然物複合材料特論	1後	2				1						
生体生理工学特論	1前	2									1	
生物生産学特論	1前	2									1	
機能性高分子材料特論	1後	2									1	
バイオポリマー工学特論	1前	2									1	
有機エレクトロニクス材料化学特論	1前	2								1		
複合材料工学特論	1前	2									1	
高分子材料設計特論	1後	2									1	
高分子包膜システム工学特論	1後	2									1	
グローバル・実践科目	有機材料システム特別計画研究	1前	2			13	11		5		7	
	有機材料システム特別教育研修	1前・後	2			13	11		5		7	
	有機材料システム研究計画(グローバル)	2前	2			13	11		5		7	
	実践型PBL教育Ⅱ	1前	2								1	
	グローバルコミュニケーション演習Ⅱ	1前	2			1						
国際共同研究(長期海外インターンシップ)	1前・後	2			1							
有機材料システム特別演習B	1-3通	2			13	11		5		7		
有機材料システム特別実験B	1-3通	4			13	11		5		7		

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成28年度】

- ・昇任による職位の変更のため、「機能材料科学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・人事異動のため、「有機電子材料物性特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「兼任・兼担1」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「機能性高分子材料特論」「バイオポリマー工学特論」「有機エレクトロニクス材料化学特論」「複合材料工学特論」「高分子材料設計特論」「高分子包装システム工学特論」を追加。
- ・人事異動のため、「有機材料システム特別計画研究」「有機材料システム特別教育研修」「有機材料システム研究計画（プロポーザル）」「有機材料システム特別演習B」「有機材料システム特別実験B」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授13」に、「准教授11」から「准教授9」に、「助教7」から「助教6」にそれぞれ変更。

【平成29年度】

- ・教育体制充実のため、「有機電子材料物性特論」の専任教員等の配置を「兼任・兼担1」から「准教授1」に変更。
- ・昇任による職位の変更のため、「有機エレクトロニクス材料化学特論」の専任教員等の配置を「助教1」から「准教授1」に変更。
- ・人事異動のため、「有機材料システム特別計画研究」「有機材料システム特別教育研修」「有機材料システム研究計画（プロポーザル）」「有機材料システム特別演習B」「有機材料システム特別実験B」の専任教員等の配置を「准教授9」から「准教授11」に、「助教6」から「助教5」にそれぞれ変更。

【平成30年度】

- ・人事異動のため、「有機電子材料合成特論B」の専任教員等の配置を「准教授1」から「助教1」に変更。
- ・昇任による職位の変更のため、「高分子応用レオロジー特論B」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・人事異動のため、「有機材料システム特別計画研究」「有機材料システム特別教育研修」「有機材料システム研究計画（プロポーザル）」「有機材料システム特別演習B」「有機材料システム特別実験B」の専任教員等の配置を「教授13」から「教授14」に、「准教授11」から「准教授9」に、「助教5」から「助教6」にそれぞれ変更。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	36 科目	0 科目	41 科目	5 科目 [0]	42 科目 [6]	0 科目 [0]	47 科目 [6]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目 ※該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 ※該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

※該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{41} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	374,451 m ²	0 m ²	0 m ²	374,451 m ²				
	運 動 場 用 地	132,076 m ²	0 m ²	0 m ²	132,076 m ²				
	小 計	506,527 m ²	0 m ²	0 m ²	506,527 m ²				
	そ の 他	7,937,080 m ²	0 m ²	0 m ²	7,937,080 m ²				
	合 計	8,443,607 m ²	0 m ²	0 m ²	8,443,607 m ²				
(2) 校 舎	専 用	205,756 m ²	0 m ²	0 m ²	205,756 m ²				
	(205,756 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(205,756 m ²)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	118 室	118 室	733 室	18 室 (補助職員 3 人)	3 室 (補助職員 0 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	有機材料システム研究科 有機材料システム専攻 (博士後期課程)			31 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本	学科・専攻単位での特 定不能なため、大学全 体の数	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル					
	冊	種	[うち外国書]	点	点	点			
	有機材料システム研究科 有機材料システム専攻 (博士後期課程)	1,092,869 [318,930] (1,092,869 [318,930])	24,848 [7,051] (24,848 [7,051])	7,954 [6,665] (7,954 [6,665])	6,525 (6,525)	126 (126)	717 (717)		
計	1,092,869 [318,930] (1,092,869 [318,930])	24,848 [7,051] (24,848 [7,051])	7,954 [6,665] (7,954 [6,665])	6,525 (6,525)	126 (126)	717 (717)			
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	12,975 m ²		1,379 席		1,059,167 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	7,067 m ²		陸上競技場、野球場、サッカー場、テニスコート、水泳プール (50 m)、武道場、弓道場、重量拳練習場						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費 (運営費交付金) による
		教員 1 人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名 称	山形大学							備 考	
既設学部等の名称	修業年限	入 定 学 員	編入学 員	収 定 容 員	学位又 は称号	平均入 学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
人文社会科学部									
人文社会科学科	4	290	3年次 20	1200	学士 (文学, 学術, 法学, 政策科学, 経済学)	1.05	平成29年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
人文学部									
人間文化学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	平成8年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	平成29年より学生募集停止
法経政策学科	4	—	—	—	学士 (法学, 経済学, 政策科学)	—	平成18年度	同上	平成29年より学生募集停止
地域教育文化学部									
地域教育文化学科	4	175	—	700	学士 (教育学, 学術)	1.03	平成24年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
児童教育コース	4	80	—	320	学士 (教育学)	1.04	平成24年度	同上	
文化創生コース	4	95	—	380	学士 (学術)	1.00	平成29年度	同上	
異文化交流コース	4	—	—	—	学士 (学術)	—	平成24年度	同上	平成29年より学生募集停止
造形芸術コース	4	—	—	—	学士 (学術)	—	平成24年度	同上	平成29年より学生募集停止
音楽芸術コース	4	—	—	—	学士 (学術)	—	平成24年度	同上	平成29年より学生募集停止
スポーツ文化コース	4	—	—	—	学士 (学術)	—	平成24年度	同上	平成29年より学生募集停止
食環境デザインコース	4	—	—	—	学士 (学術)	—	平成24年度	同上	平成29年より学生募集停止
生活環境科学コース	4	—	—	—	学士 (学術)	—	平成24年度	同上	平成29年より学生募集停止
システム情報学コース	4	—	—	—	学士 (学術)	—	平成24年度	同上	平成29年より学生募集停止
地域教育学科	4	—	—	—	学士 (教育学)	—	平成17年度	同上	平成24年より学生募集停止
生活総合学科	4	—	—	—	学士 (学術)	—	平成17年度	同上	平成24年より学生募集停止
理学部									
理学科	4	210	—	840	学士 (理学)	1.04	平成29年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
数理科学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	平成7年度	同上	平成29年より学生募集停止
物理学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	昭和42年度	同上	平成29年より学生募集停止
物質生命化学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	平成7年度	同上	平成29年より学生募集停止
生物学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	昭和42年度	同上	平成29年より学生募集停止
地球環境学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	平成7年度	同上	平成29年より学生募集停止
医学部									
医学科	6	120	—	720	学士 (医学)	1.00	昭和48年度	山形県山形市飯田西二丁目2番2号	
看護学科	4	60	3年次 5	250	学士 (看護学)	1.00	平成5年度	同上	

工学部																				
(昼間コース)																				
高分子・有機材料工学科	4	140	—	560	学士 (工学)	1.04	平成29年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号												
化学・バイオ工学科	4	140	—	560	学士 (工学)	1.03	平成29年度	同上												
情報・エレクトロニクス学科	4	150	—	600	学士 (工学)	1.05	平成29年度	同上												
機械システム工学科	4	140	—	560	学士 (工学)	1.05	平成29年度	同上												
建築・デザイン学科	4	30	—	120	学士 (工学)	1.04	平成29年度	同上												
機能高分子工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成12年度	同上											平成29年より学生募集停止	
物質化学工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成12年度	同上												平成29年より学生募集停止
バイオ化学工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成22年度	同上												平成29年より学生募集停止
応用生命システム工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成12年度	同上												平成29年より学生募集停止
情報科学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成12年度	同上												平成29年より学生募集停止
電気電子工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成12年度	同上												平成29年より学生募集停止
(フレックスコース)																				
システム創成工学科	4	50	—	200	学士 (工学)	1.06	平成22年度	同上												
農学部																				
食料生命環境学科	4	165	—	660	学士 (農学)	1.01	平成22年度	山形県鶴岡市若葉町1番23号												

大学の名称	山形大学大学院													備考
-------	---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

既設学部等の名称	修業年限	入定	学員	編入学員	収定	容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年		人	年次人		人		倍			
社会文化システム研究科 (修士課程)											
文化システム専攻	2		6	—		12	修士 (文学)	1.99	平成9年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
社会システム専攻	2		6	—		12	修士 (政策科学)	0.66	平成9年度	同上	
地域教育文化研究科 (修士課程)											
臨床心理学専攻	2		6	—		12	修士 (臨床心理学)	0.99	平成21年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号	
文化創造専攻	2		8	—		16	修士 (学術)	0.93	平成21年度	同上	
医学系研究科 (博士課程)											
医学専攻	4		26	—		104	博士 (医学)	0.82	昭和54年度	山形県山形市飯田西二丁目2番2号	
(博士前期課程)											
看護学専攻	2		16	—		32	修士 (看護学)	1.02	平成9年度	同上	
先進的医科学専攻	2		15	—		30	修士 (医科学)	0.36	平成29年度	同上	
生命環境医科学専攻	2		—	—		—	修士 (医科学)	—	平成16年度	同上	平成29年より学生募集停止

(博士後期課程)													
看護学専攻	3	3	—	9	博士 (看護学)	0.88	平成19年度	同上					
先進的医科学専攻	3	9	—	27	博士 (医科学)	0.49	平成29年度	同上					
生命環境医科学専攻	3	—	—	—	博士 (医科学)	—	平成16年度	同上					平成29年より学生募集停止
理工学研究科													
(博士前期課程)													
理学専攻	2	53	—	106	修士 (理学)	1.06	平成29年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号					
物質生命化学専攻	2	—	—	—	修士 (理学)	—	平成11年度	同上					平成29年より学生募集停止
生物学専攻	2	—	—	—	修士 (理学)	—	平成11年度	同上					平成29年より学生募集停止
物質化学工学専攻	2	38	—	76	修士 (工学)	1.12	平成16年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号					
バイオ化学工学専攻	2	28	—	56	修士 (工学)	1.23	平成22年度	同上					
応用生命システム工学専攻	2	23	—	46	修士 (工学)	1.04	平成16年度	同上					
情報科学専攻	2	28	—	56	修士 (工学)	0.81	平成16年度	同上					
電気電子工学専攻	2	34	—	68	修士 (工学)	1.01	平成16年度	同上					
機械システム工学専攻	2	50	—	100	修士 (工学)	1.44	平成5年度	同上					
ものづくり技術経営学専攻	2	10	—	20	修士 (工学)	0.85	平成17年度	同上					
(博士後期課程)													
地球共生圏科学専攻	3	5	—	15	博士 (理学、工学、学術)	0.66	平成11年度	山形県山形市小白川町一丁目4番12号					
物質化学工学専攻	3	3	—	9	博士 (工学)	1.33	平成28年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号					
バイオ工学専攻	3	4	—	12	博士 (工学、学術)	0.58	平成22年度	同上					
電子情報工学専攻	3	4	—	12	博士 (工学、学術)	0.50	平成22年度	同上					
機械システム工学専攻	3	3	—	9	博士 (工学、学術)	1.33	平成22年度	同上					
ものづくり技術経営学専攻	3	2	—	6	博士 (工学、学術)	0.16	平成19年度	同上					
物質生産工学専攻	3	—	—	—	博士 (工学、学術)	—	平成5年度	同上					平成22年より学生募集停止
有機材料工学専攻	3	—	—	—	博士 (工学、学術)	—	平成22年度	同上					平成28年より学生募集停止
有機材料システム研究科													
(博士前期課程)													
有機材料システム専攻	2	65	—	130	修士 (工学)	1.35	平成28年度	山形県米沢市城南四丁目3番16号					
(博士後期課程)													
有機材料システム専攻	3	10	—	30	博士 (工学)	1.00	平成28年度	同上					
農学研究科													
(修士課程)													
生物生産学専攻	2	14	—	28	修士 (農学)	1.14	平成7年度	山形県鶴岡市若葉町1番23号					
生物資源学専攻	2	16	—	32	修士 (農学)	0.84	平成14年度	同上					
生物環境学専攻	2	12	—	24	修士 (農学)	0.54	平成7年度	同上					

教育実践研究科 (専門職学位課程) 教職実践専攻	2	20	—	40	教職修 士 (<small>専任職</small>)	1.00	平成21年度	山形県山形市小白川町 一丁目4番12号
--------------------------------	---	----	---	----	------------------------------------	------	--------	------------------------

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	山内 泰樹 (50) <平成28年4月> 知覚情報システム概論 有機材料システム特別計画研究 有機材料システム特別教育研修 有機材料システム研究計画(プロポーザル) 有機材料システム特別演習B 有機材料システム特別実験B
兼任	教授	新聞 久一 (61) <平成28年4月> 生体理工学特論 有機材料システム特別計画研究 有機材料システム特別教育研修 有機材料システム研究計画(プロポーザル) 有機材料システム特別演習B 有機材料システム特別実験B
兼任	教授	神戸 士郎 (55) <平成28年4月> 実践型PBL教育II グローバルコミュニケーション演習II 国際共同研究(長期インターンシップ)
兼任	教授	西澤 隆 (60) <平成28年4月> 生物生産学特論
兼任	准教授	奥山 澄雄 (50) <平成28年4月> 半導体プロセス工学特論
兼任	准教授	片桐 洋史 (41) <平成28年4月> 有機材料構造化学特論B 有機材料システム特別計画研究 有機材料システム特別教育研修 有機材料システム研究計画(プロポーザル) 有機材料システム特別演習B 有機材料システム特別実験B
兼任	准教授	増原 陽人 (42) <平成28年4月> 有機ナノ粒子材料工学 有機材料システム特別計画研究 有機材料システム特別教育研修 有機材料システム研究計画(プロポーザル) 有機材料システム特別演習B 有機材料システム特別実験B
兼任	准教授	横山 道央 (48) <平成28年4月> 先端情報通信LSIシステム特論B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	山内 泰樹 (51) <平成28年4月> 知覚情報システム概論 有機材料システム特別計画研究 有機材料システム特別教育研修 有機材料システム研究計画(プロポーザル) 有機材料システム特別演習B 有機材料システム特別実験B
兼任	教授	新聞 久一 (62) <平成28年4月> 生体理工学特論 有機材料システム特別計画研究 有機材料システム特別教育研修 有機材料システム研究計画(プロポーザル) 有機材料システム特別演習B 有機材料システム特別実験B
兼任	教授	神戸 士郎 (56) <平成28年4月> 実践型PBL教育II グローバルコミュニケーション演習II 国際共同研究(長期インターンシップ)
兼任	教授	西澤 隆 (61) <平成28年4月> 生物生産学特論
兼任	准教授	奥山 澄雄 (51) <平成28年4月> 半導体プロセス工学特論
兼任	准教授	片桐 洋史 (42) <平成28年4月> 有機材料構造化学特論B 有機材料システム特別計画研究 有機材料システム特別教育研修 有機材料システム研究計画(プロポーザル) 有機材料システム特別演習B 有機材料システム特別実験B
兼任	准教授	増原 陽人 (43) <平成28年4月> 有機ナノ粒子材料工学 有機材料システム特別計画研究 有機材料システム特別教育研修 有機材料システム研究計画(プロポーザル) 有機材料システム特別演習B 有機材料システム特別実験B
兼任	准教授	横山 道央 (49) <平成28年4月> 先端情報通信LSIシステム特論B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	山内 泰樹 (52) <平成28年4月> 知覚情報システム概論 有機材料システム特別計画研究 有機材料システム特別教育研修 有機材料システム研究計画(プロポーザル) 有機材料システム特別演習B 有機材料システム特別実験B
兼任	教授	新聞 久一 (63) <平成28年4月> 生体理工学特論 有機材料システム特別計画研究 有機材料システム特別教育研修 有機材料システム研究計画(プロポーザル) 有機材料システム特別演習B 有機材料システム特別実験B
兼任	教授	神戸 士郎 (57) <平成28年4月> 実践型PBL教育II グローバルコミュニケーション演習II 国際共同研究(長期インターンシップ)
兼任	教授	西澤 隆 (62) <平成28年4月> 生物生産学特論
兼任	准教授	奥山 澄雄 (52) <平成28年4月> 半導体プロセス工学特論
兼任	准教授	片桐 洋史 (43) <平成28年4月> 有機材料構造化学特論B 有機材料システム特別計画研究 有機材料システム特別教育研修 有機材料システム研究計画(プロポーザル) 有機材料システム特別演習B 有機材料システム特別実験B
兼任	准教授	増原 陽人 (44) <平成28年4月> 有機ナノ粒子材料工学 有機材料システム特別計画研究 有機材料システム特別教育研修 有機材料システム研究計画(プロポーザル) 有機材料システム特別演習B 有機材料システム特別実験B
兼任	准教授	横山 道央 (50) <平成28年4月> 先端情報通信LSIシステム特論B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	山内 泰樹 (53) <平成28年4月> 知覚情報システム概論 有機材料システム特別計画研究 有機材料システム特別教育研修 有機材料システム研究計画(プロポーザル) 有機材料システム特別演習B 有機材料システム特別実験B
兼任	教授	新聞 久一 (64) <平成28年4月> 生体理工学特論 有機材料システム特別計画研究 有機材料システム特別教育研修 有機材料システム研究計画(プロポーザル) 有機材料システム特別演習B 有機材料システム特別実験B
兼任	教授	神戸 士郎 (58) <平成28年4月> 実践型PBL教育II グローバルコミュニケーション演習II 国際共同研究(長期インターンシップ)
兼任	教授	西澤 隆 (63) <平成28年4月> 生物生産学特論
兼任	准教授	奥山 澄雄 (53) <平成28年4月> 半導体プロセス工学特論
兼任	准教授	片桐 洋史 (44) <平成28年4月> 有機材料構造化学特論B 有機材料システム特別計画研究 有機材料システム特別教育研修 有機材料システム研究計画(プロポーザル) 有機材料システム特別演習B 有機材料システム特別実験B
兼任	准教授	増原 陽人 (45) <平成28年4月> 有機ナノ粒子材料工学 有機材料システム特別計画研究 有機材料システム特別教育研修 有機材料システム研究計画(プロポーザル) 有機材料システム特別演習B 有機材料システム特別実験B
兼任	准教授	横山 道央 (51) <平成28年4月> 先端情報通信LSIシステム特論B

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成28年度】

- ・羽場准教授が教授に昇任
- ・中山准教授辞任により、平成28年10月採用に向け、後任を公募。
- ・中林助教、福島助教、笹部助教、高山助教、西辻助教、宮田助教を追加（平成27年10月資格審査済）

【平成29年度】

- ・松井准教授が平成29年4月就任（平成29年1月資格審査済）
- ・笹部助教が准教授に昇任

【平成30年度】

- ・夫准教授辞任により、千葉助教が平成30年4月就任（平成30年2月資格審査済）
- ・杉本准教授が教授に昇任

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
4	3	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	教授	准教授	講師	助教	計（C）
12	11	0	7	30	14	9	0	6	29	13	9	0	6	28
(13)	(9)	(0)	(6)	(28)						[1]	[Δ2]	[0]	[Δ1]	[Δ2]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
23	7	0			22	7	0			22	6	0		
(22)	(6)	(0)								[Δ1]	[Δ1]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、
完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{28}{30} = \boxed{93.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況（B）}} = \frac{0}{29} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
合計 (D)			後任補充状況の集計 (E)							
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由					
1	准教授	中山 健一	選択	有機電子材料物性特論	①	H28. 3. 31付け他大学へ転出のため辞任 (28)					
			必修	有機材料システム特別計画研究	①						
			必修	有機材料システム特別教育研修	①						
			必修	有機材料システム研究科編（フロンティア）	①						
			必修	有機材料システム特別演習B	①						
必修	有機材料システム特別実験B	①									
2	准教授	夫 勇進	選択	有機電子材料合成特論B	①		H29. 6. 30付け他大学へ転出のため辞任 (30)				
			必修	有機材料システム特別計画研究	①						
			必修	有機材料システム特別教育研修	①						
			必修	有機材料システム研究科編（フロンティア）	①						
			必修	有機材料システム特別演習B	①						
必修	有機材料システム特別実験B	①									
合計 (F)			後任補充状況の集計 (G)								
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
2	人	必修	10	科目	必修	10		科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2		科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	12	科目	計	12	科目	計	0	科目	

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
2	人	必修	10	科目	必修	10	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	12	科目	計	12	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{2}{30} = \boxed{6.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		※該当なし					
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

上記の教員が担当する科目については、後任の専任教員が各科目を担当しているため支障はない。また、学生への周知については、オリエンテーション、学生便覧及びWeb等で周知徹底を行った。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成27年8月)	※該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成29年2月)	※該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年2月)	※該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<有機材料システム研究科 有機材料システム専攻（博士後期課程）>

(1) 設置計画変更事項等 ※該当なし

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
記入例) ① 修了要件単位数 1 2 4 単位 必修科目〇〇単位, 選択科目〇〇単位 ② 施設・設備 a 講義室〇室 (〇㎡) b 自習室〇室 (〇㎡) c 図書〇〇冊	① 学生の専門性をより高めるため、必修科目（1科目・2単位）を追加。（別添〇「新旧対象表」参照） ② 学生の修学環境を改善するため、講義室、自習室をそれぞれ〇部屋（〇㎡）増やすとともに、図書も〇〇冊増書した。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む） ※該当なし

① 実施体制 a 委員会の設置状況 b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） c 委員会の審議事項等 ② 実施状況 a 実施内容 記入例) ・ 授業方法について研究会 ・ 教員相互の授業参観 ・ 新任教員のための研修会 等 b 実施方法 c 開催状況（教員の参加状況含む） d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況 a 実施の有無及び実施時期 b 教員や学生への公開状況、方法等

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項 ※該当なし

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
② 自己点検・評価報告書 ※該当なし
a 公表（予定）時期 記入例 ・平成30年5月1日 公表
b 公表方法 記入例 ・自己点検・評価報告書を刊行し、近隣企業（〇〇社）及び希望があった学生（〇〇名）に各1冊を配布 ・大学ホームページ上に公開予定（平成30年8月末を予定）
③ 認証評価を受ける計画 ・平成31年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書
a ホームページに公表（予定）の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)
b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (平成30年10月1日)

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。
・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。